

環境報告書  
2022

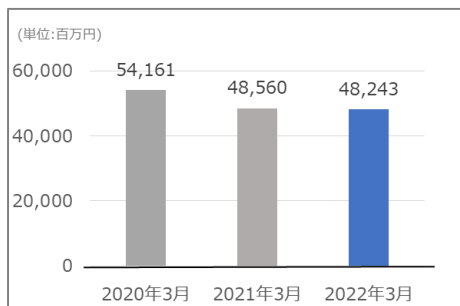
# Contents

会社概要	1	省エネルギー・省資源への取り組み	5
環境マネジメント	2	SMK Eco商品 / 環境会計	6
カーボンニュートラル実現をめざして	3	環境保全活動トピックス	7
2021年度 環境保全活動総括/マテリアルバランス	4		

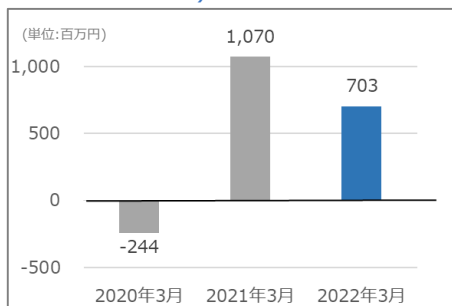
## 会社概要 (2022年3月31日時点)

商号	SMK株式会社
英文社名	SMK Corporation
創業	1925年（大正14年）4月3日
主な事業	電子機器およびその部品の開発・製造および販売と関連するサービスの提供
資本金	7,996百万円
社員数	4,963名（連結）
本社	〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL. (03) 3785-1111（代表）
主な製品	コネクタ/ジャック/リモコン/スイッチ/無線通信モジュール/カメラモジュール/タッチパネル/センサー

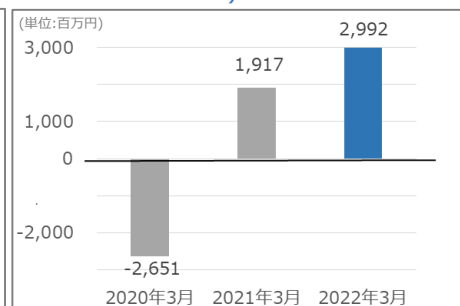
売上高（連結）



営業利益（連結）



当期純利益（連結）



### 本報告書について

対象期間 2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）

集計範囲 SMK株式会社（国内7拠点）および連結子会社（国内3拠点、海外16拠点）

#### CO<sub>2</sub>換算係数

- ・国内の購入電力：電気事業低炭素社会協議会公表の換算係数を使用
- ・海外の購入電力：2005年度から2011年度排出分はIEA（International Energy Agency）、2012年度以降はDEFRA（Department for Environment Food&Rural Affairs）公表の換算係数を使用
- ・燃料：環境省公表の換算係数を使用
- ・CO<sub>2</sub>換算係数の更新により、過去年度の実績を修正しています。

企業情報の入手方法 会社案内、IR情報、製品紹介、過去の環境報告書はSMKホームページで公開しています。

<https://www.smk.co.jp/>

CSR情報はこちら：<https://www.smk.co.jp/csr/>



# 環境マネジメント

## SMKグループ環境憲章

### 1.基本理念

SMKは良き企業市民として社員一人ひとりが地球規模で持続的発展が可能な社会に寄与するという自覚を持ち、総合的な高度技術により経済発展と環境保全の両立に努めます。

### 2.行動指針

- (1) 環境にやさしい製品の開発をします。
- (2) 物を大切にし、廃棄物を減少させます。
- (3) 資源を大切にし、エネルギーを節約します。
- (4) 3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進します。
- (5) 無駄のない購入・生産をします。

## 環境保全推進体制

SMKグループにおける環境保全に関する方針等は、環境担当役員を委員長とする環境保全委員会で決定され、重要事項に関しましては、執行役員会での決定となります。

また、国内外の各事業所におきましては、SMKグループ方針等に固有の課題を取り入れた独自の方針等を事業所環境保全委員会で決定の上、活動しています。

## 環境マネジメントシステム

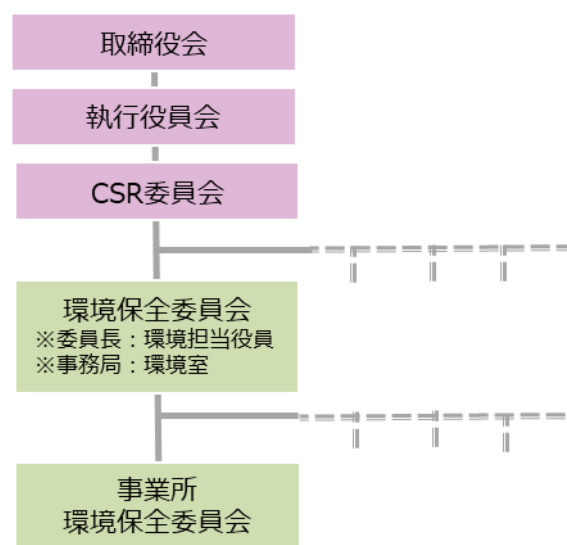
SMKは国内・海外の全生産事業所で、ISO14001国際規格に基づく環境マネジメントシステムを構築しています。

環境保全委員会では、各事業所に関わる法規制改正情報の共有や、法規制順守状況および環境または生態系に関連する事故の有無を確認しています。

2021年度、SMKグループにおいて環境関連の法令違反や罰金などはありませんでした。

協力会社様には、グリーン調達ガイドラインにて環境保全活動の推進をお願いしています。具体的には、SMKが禁止する環境負荷物質の不使用をお約束いただくとともに、ISO14001に基づく体制の構築をお願いしています。ISO14001の認証を取得されていない協力会社様に対しては、訪問して環境保全活動の実施状況を確認し、必要に応じ改善指導を行っています。

### 環境保全組織



ISO14001審査（本社）

# カーボンニュートラル実現をめざして

SMKは、2045年度カーボンニュートラル実現の目標を設定しました。

加えて、電機・電子業界「カーボンニュートラル行動計画」に準じ、エネルギー原単位改善率年1%以上を目標に活動を推進しています。

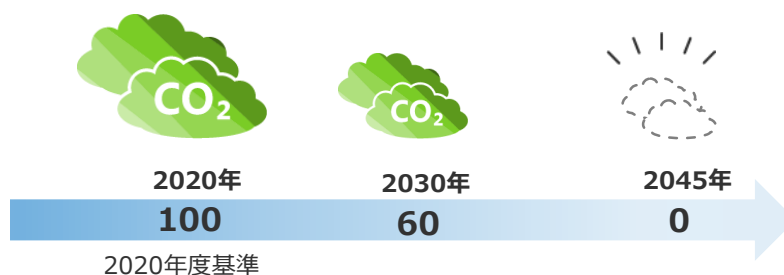
## ■ 2045年度 カーボンニュートラル実現

## ■ 2030年度エネルギー生産高原単位：2020年度基準9.56%削減

2021年9月には、環境保全委員会の傘下にカーボンニュートラルタスクフォースを立ち上げ、世代を超えて知見を継承し、確実に推し進めていく体制を構築しました。2021年度は本社および国内外の全生産事業所にて、2030年までの原単位削減計画を立案しました。主な施策は、省エネルギー設備および再生可能エネルギー発電設備の拡充です。単年度計画にて具現化し、状況を見定めた最適な手段を追求しながら、全社一丸となり取り組みます。

カーボンニュートラルタスクフォースでは、サプライチェーン排出量Scope3の見える化も重要課題に掲げており、協力会社様との連携を深め、環境負荷の低減に向けた課題の抽出と解決に努めます。

CO<sub>2</sub>原単位削減（Scope1+2）



## 太陽光発電実績

### ■ SMKフィリピン工場建屋屋上設置：1.6万kWh



太陽光発電設備の設備投資を組織的に推し進めるために、専門チームが知見を共有して水平展開を図り、各事業所の活動をサポートしています。

2022年度には、一部の事業所へ太陽光発電設備を導入予定です。

# 2021年度環境保全活動総括

## 地球温暖化防止

省エネ改善推進により、CO<sub>2</sub>生産高原単位\*1、CO<sub>2</sub>総排出量ともに目標を達成しました。

## 生物多様性保全

新型コロナウイルス感染予防の観点から、前年度に引き続き、近隣の小学生を対象とした環境学習講座の開催を見送りました。

## 資源の有効活用

廃棄物生産高原単位\*2、廃棄物総排出量ともに目標を達成できませんでしたが、製造工程におけるムダ取り活動を推進し、前年度より改善しました。

埋立処分量は、海外でのリサイクル推進により目標を達成しました。

## 環境関連物質管理の確実な対応

環境関連物質管理システムを定期的にアップグレードして効率運用化を推進しました。

## 製品アセスメントのレベルアップ

製品アセスメントとEco商品の統合を進めましたが、システム仕様を一部追加することになったため、統合には至りませんでした。

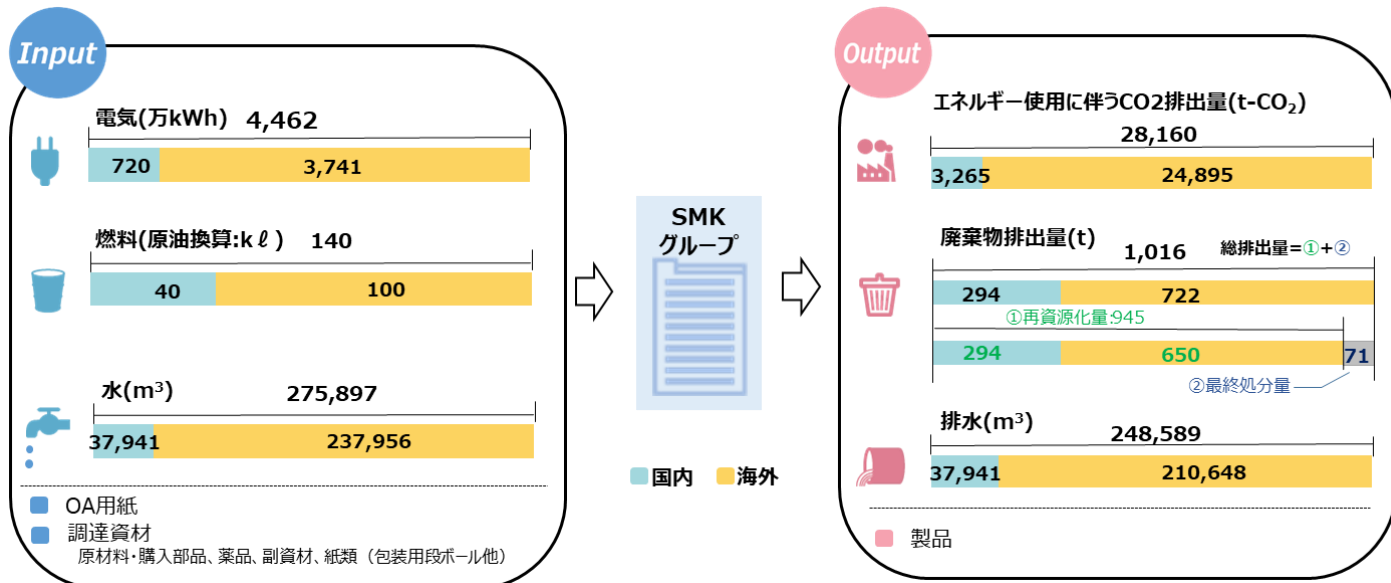
自己評価：○目標達成 △目標未達成(前年度より改善) ×目標未達成

取り組み項目	2021年度		自己評価
	目標	実績	
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 生産高原単位*1 前年度比 11%以上削減	CO <sub>2</sub> 生産高原単位*1 前年度比 14%削減	○
	CO <sub>2</sub> 総排出量 28,837t- CO <sub>2</sub> 以下	CO <sub>2</sub> 総排出量 28,160t- CO <sub>2</sub>	○
生物多様性保全	生物多様性保全の普及啓発	新型コロナウイルス感染予防のため 環境学習講座を見送り	×
資源の有効活用	廃棄物生産高原単位*2 前年度比14%以上削減	廃棄物生産高原単位*2 前年度比 9%削減	△
	廃棄物総排出量 952t以下	廃棄物総排出量 1,016t	△
	埋立処分量 82t以下	埋立処分量 71t	○
環境関連物質管理の確実な対応	部材構成情報登録・EU-REACH規則対応 システムの効率運用	管理システムを定期的にアップグレードして効 率運用化を推進	○
製品アセスメントの レベルアップ	製品アセスメントとEco商品システムの統合	統合には至らず	×

\*1:CO<sub>2</sub>生産高原単位=CO<sub>2</sub>排出量/生産高 \*2:廃棄物生産高原単位=廃棄物排出量/生産高

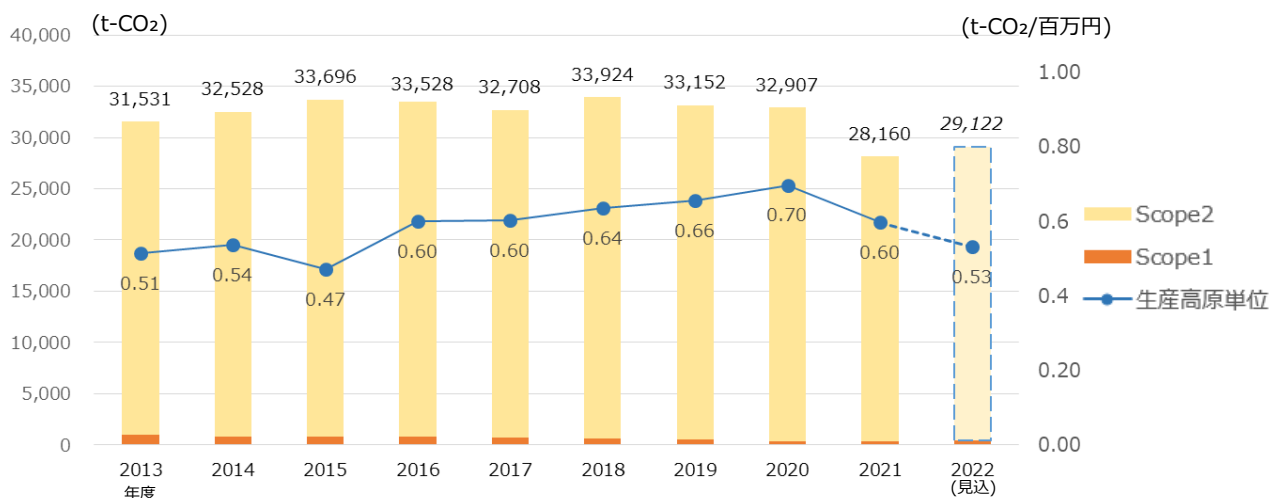
## マテリアルバランス

SMKでは製品の設計・開発、製造、販売などグループ全体の各プロセスにおける環境負荷量のマテリアルバランスを把握・解析し、低減化に努めています。



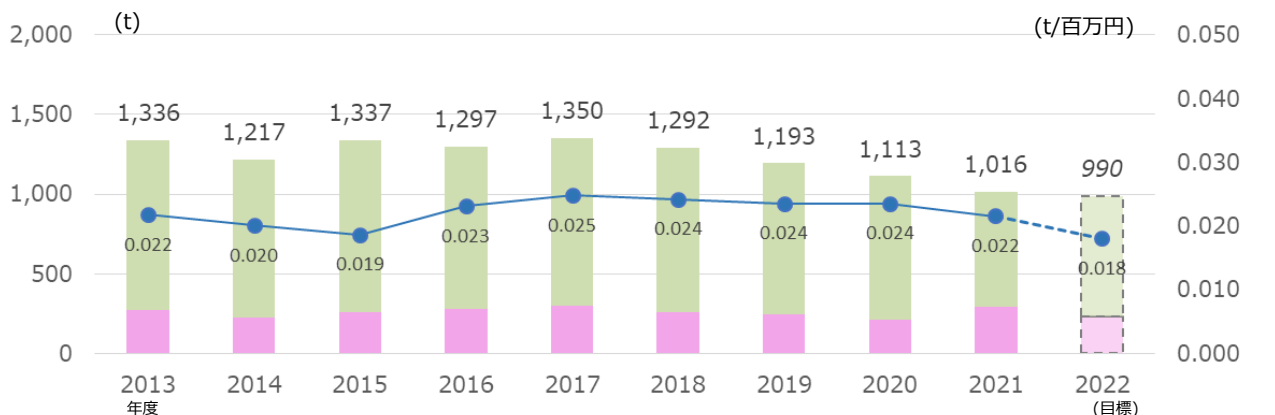
# 省エネルギー・省資源への取り組み

## CO<sub>2</sub>排出量



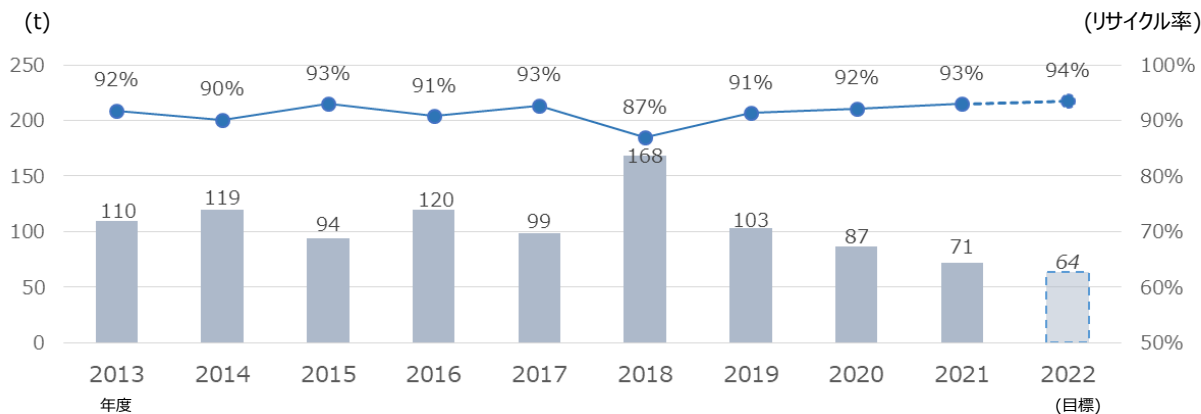
	前年度実績比		
	国内	海外	SMKグループ全体
CO <sub>2</sub> 生産高原単位	90%	88%	86%
CO <sub>2</sub> 排出量	95%	84%	86%

## 廃棄物排出量



	前年度実績比		
	国内	海外	SMKグループ全体
廃棄物生産高原単位	132%	83%	91%
廃棄物排出量	140%	80%	91%

## 埋立処分量とリサイクル率



	前年度実績比		
	国内	海外	SMKグループ全体
埋立処分量	-	83%	83%

# SMK Eco商品

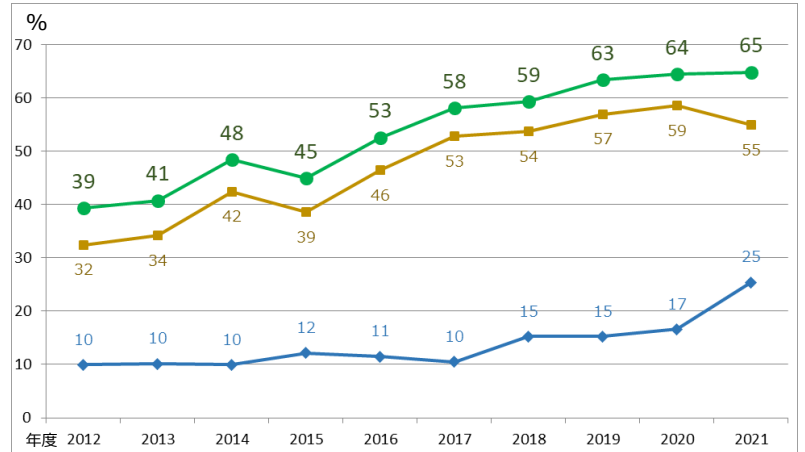
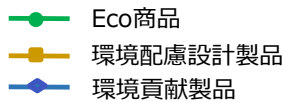
2012年度からSMK Eco商品の社内基準を設けています。

Eco商品は、お客様製品の最終市場で区分する「環境貢献製品」と、環境配慮設計レベルを評価した「環境配慮設計製品」で構成されます。

		内容
Eco商品*1	環境貢献製品	社内基準で定めた環境市場向け製品に使用されるSMK製品 例) エネルギーマネジメント、再生可能エネルギー、省エネ家電向け製品
	環境配慮設計製品	SMK社内基準で定めた省エネ・高効率化、省資源化、環境保護・環境にやさしい、製造工程負荷低減などの項目に該当するSMK製品

## Eco商品売上比率

\*1: Eco商品 = 環境貢献製品 + 環境配慮設計製品  
両方に適合する商品は、重複しないようにカウント



## 環境会計

金額単位：百万円

分類	環境保全コスト			経済効果		環境保全効果 (物量)		
	主な内容	投資額	費用額	主な内容	金額			
事業エリア内	公害防止	公害防止処理施設の運用・維持 等	5.0	39.1	-	0	環境負荷物質 使用量	7.8t 増加
	地球環境保全	省エネルギー機器導入、冷暖房等の設備の効率稼働および保守・点検 等	35.5	49.4	省エネルギーによる費用削減効果(電気)、日本国内太陽光発電システム(FIT)売電効果 等	23.2	CO <sub>2</sub> 排出量	4,747t-CO <sub>2</sub> 削減
	資源循環	廃棄物の適正処理・リサイクルの推進 等	0	23.5	廃棄物の売却益、生産設備のリユース効果 等	133.9	埋立処分量	15.5t 削減
							廃棄物排出量	97t 削減
	小計	-	40.5	111.9	-	157.1	-	-
上・下流	グリーン購入の推進 等	0	0.1	-	0	-	-	-
管理活動	製品への環境負荷物質非含有保証活動、環境マネジメントの推進 等	0	155.1	-	0	-	-	-
研究開発	Eco製品開発の推進 等	0	15.3	-	0	-	-	-
社会活動	地域および事業所内緑化活動 等	0	7.3	-	0	-	-	-
環境損傷	-	0	0	-	0	-	-	-
合計	-	40.5	289.7	-	157.1	-	-	-

- ・ 環境保全コスト：前年度に対し投資は16.6百万円の増加、費用も14.5百万円の増加となりました。投資が大きく増えた理由は、省エネルギー対策として空調設備や照明器具などの更新に35.5百万円の設備投資を行ったためです。
- ・ 経済効果：前年度に対し18.4百万円の増加となりました。廃棄物の売却益が増えたことが主因です。経済効果には省エネルギー設備投資による電気料金削減効果7.2百万円を含みます。
- ・ 環境保全効果 (物量削減)：改善活動を推進した結果、環境負荷物質を除くCO<sub>2</sub>排出量、廃棄物埋立処分量ならびに廃棄物排出量は削減となり改善できました。CO<sub>2</sub>排出量の改善には、省エネルギー設備投資による推定CO<sub>2</sub>削減効果367tも寄与しています。

集計方法について：

- ・環境省「環境会計ガイドライン（2005年版）」に準拠しました。
- ・経済効果は、根拠が明確なものに限定しました（いわゆる“推定的効果”は含みません）。
- ・環境保全効果の環境負荷物質は、化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）の規制物質を対象に集計しました。

# 環境活動トピックス

## 植栽活動

2017年より、しながわCSR推進協議会の会員として「しながわ花海道」の種まきに参加しています。

「しながわ花海道」はNPO法人が維持管理を行っているプロジェクトで、勝島運河護岸の約2kmにさまざまな花を育て、自然豊かで調和のとれた社会づくりに貢献しています。

昨年同様、参加企業合同の種まきイベントは中止となりましたが、各企業が日程をずらして種まきを行ったことで、例年と変わらぬ美しい花海道を楽しむことができました。



本社

2021年6月、行政プログラムに参加し、従業員へ環境保全の啓蒙と、生産パフォーマンス優秀者6名へ植物を授与しました。



メキシコ工場

## 廃棄物削減

使用済み梱包用木製パレットを近隣の公園施設へ寄付しています。

恐竜をテーマとした公園で、施設の多くは木造です。

廃材パレットは、恐竜のオブジェや施設整備の材料として再利用されています。



フィリピン工場



# 環境活動トピックス

## 食品ロス削減

### フードドライブ

日本では、まだ食べられるのにゴミとして捨てられてしまう「食品ロス」が年間600万トン発生しています。

2021年度はフードドライブ活動を2回実施し、従業員のご家庭から缶詰、お菓子、飲料水、乾麺、レトルト食品等、計503品が集まり、社会福祉協議会やフードバンクに寄付しました。

食品廃棄物削減の取り組みとして、今後も定期的に活動を続けます。

日本  
国内



### 健康菜園プロジェクト

フィリピン工場の緑地スペースに従業員から寄付された野菜の苗を植え、有機栽培でナス300個、インゲン豆600本を収穫しました。

収穫した野菜は従業員へ配られ、収穫の喜びを分かち合いました。このプロジェクトは、社員の健康と食材を無駄にしない意識を育みます。今後は、食堂から排出される野菜の皮などからコンポストを作り、さらに肥沃な土に育てて活動を継続します。

フィリピン  
工場



## 清掃活動

ひたち事業所では、毎年6月と12月に事業所周辺の清掃を行っています。近年は、海へ流れ着いたペットボトルなどのプラスチックごみが海洋生物へ与える悪影響が問題となっています。

ひたち事業所は海岸線から1km以内に位置しており、海にたどり着くプラスチックごみを少しでも削減し自然豊かな海を維持できるよう、これからも清掃活動を継続します。

ひたち  
事業所



SMKグループの社会貢献活動は、ホームページで公開しています。  
是非、ご覧ください。

